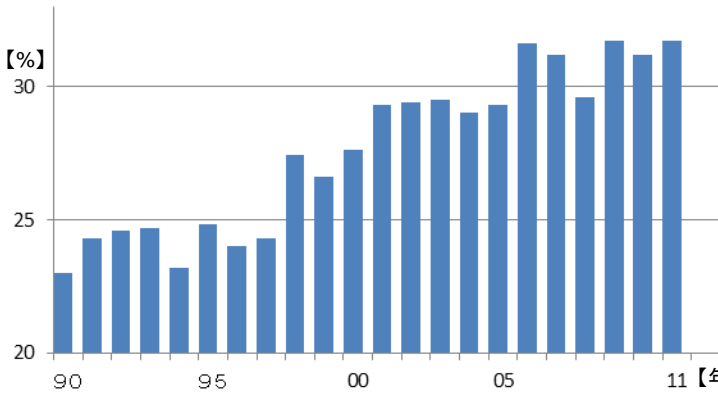


脳梗塞・心筋梗塞は静かに進行していき、突然発症する危険な病気

各種取り組みを行っているものの、日本の肥満人口は年々増えてきております

全人口に占める肥満の割合の推移(男性)

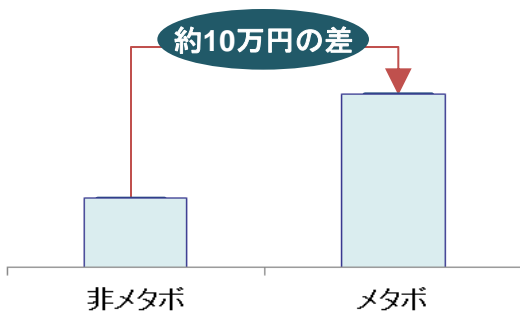


- 特定健診・特定保健指導が2008年から開始されたが、まだ大きな効果を発揮していない
- 国民医療費は2011年に38.5兆円を突破
- 前年比3.3%増で初めて国民一人当たり30万円を突破

出所: 厚生労働省「国民健康・栄養調査結果の概要」

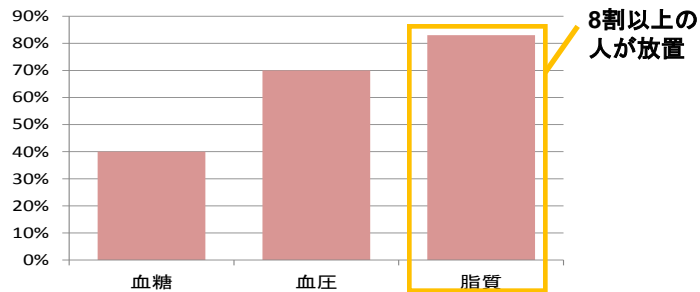
メタボの人の医療費は非メタボの人よりも8~12万円ほど高く、医療費を圧迫する要因になっております。また、この層は健康診断でD判定が出てもなかなか医療機関に行かないという事実があります

メタボ／非メタボの年間医療費の差



出所: 日経新聞

健診でD判定が出た人の半年間の放置率



出所: 日本医療データセンター

しかし、そのまま放置していくと、最終的には脳梗塞・心筋梗塞という死にも直結する病にまで発展していきます

A氏 54歳 脳梗塞 (54歳で脳梗塞を発症された方の過去の健康診断におけるD判定)

	34歳	35歳	36歳	37歳	38歳	39歳	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	50歳	51歳	52歳	53歳	54歳
検査結果	BMI25以上(肥満)																				
											高中性脂肪										
											高血圧										
											高尿酸										
治療											低HDL										
											高LDL										



これだけ健康診断で引っかかっているのに、まさか自分が発症するとは思っていなかったのではないかと

出所: 生活習慣病健診・保健指導の在り方に関する検討会 尼崎市野口緑氏提出資料より一部改変

B氏 57歳 心筋梗塞 (57歳で心筋梗塞を発症された方の過去の健康診断におけるD判定)

	37歳	38歳	39歳	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	50歳	51歳	52歳	53歳	54歳	55歳	56歳	57歳
検査結果	BMI25以上(肥満)																				
											高GPT										
											高血圧										
											高中性脂肪										
心電											低HDL										
											高血糖										
治療											陰性T波										
											反時計方向回転										
											ST-T異常										
											異常Q波										



脳梗塞・心筋梗塞は、発症する前に「如何にして予防するのか」が重要です。

脳梗塞・心筋梗塞の将来の発症リスクを血液検査から簡単に測定できる、LOX-index検査が注目を集めております。

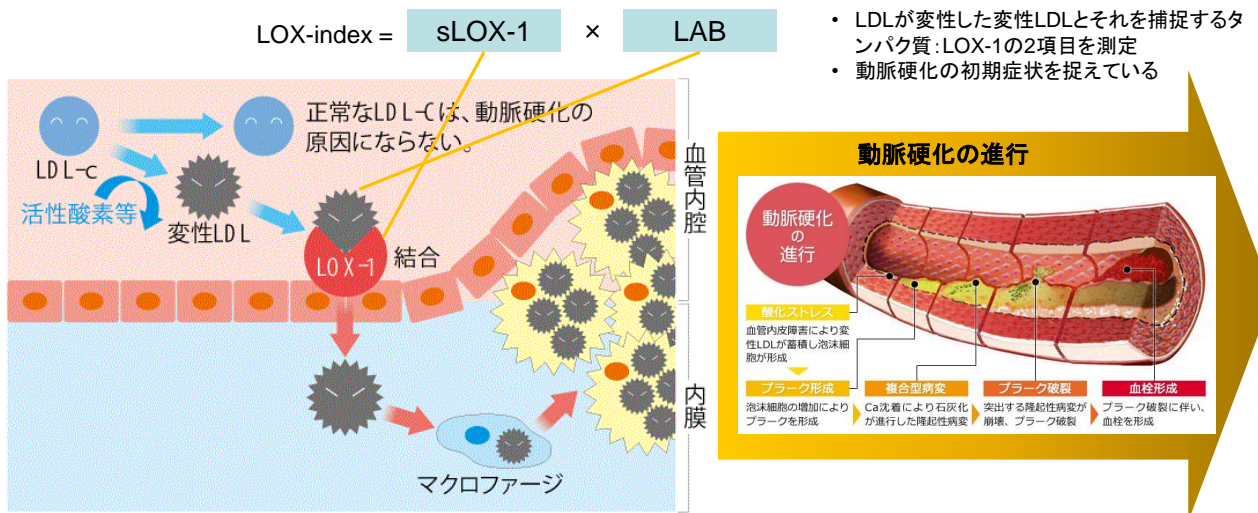
既存の検査項目では、脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを早期に把握ことはできない

- 動脈硬化とそれに続く心筋梗塞等のリスク指標としては、LDL(悪玉)コレステロールが有名ですが、脳梗塞とはそもそも相関性が無く、心筋梗塞についても発症者全体の約30%は相関性が無いことが明らかになっております。
⇒LDLが低くても心筋梗塞を発症する人が発症者全体の3割。LDLだけを見ては危険！
- 脳の精密検査として、脳ドックが有名ですが、脳梗塞の発症有無と血管状態から類推される発症リスクがわかるものの、脳以外の部分が原因の脳梗塞(全体の約35%)は検査できていないのが現状です。
⇒画像に映った時にはもう病態が進行している／脳ドックは頸部以下は診れない！

NKメディコ(株)が新たにリリースした、LOX-indexは動脈硬化の初期症状を捉えることで、将来の脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを計る世界で唯一無二の検査です

- LOX-indexとは、動脈硬化の真の原因がLDLコレステロールが酸化・変性した変性LDLと血管内皮のLOX-1との結合によるアテローム形成であるとし、変性LDLとLOX-1を測定・算出する指標です。

LOX-indexと動脈硬化のメカニズム仮説:



医学的なエビデンスも揃っております

- LOX-1は国立循環器病研究センターの沢村達也先生が1997年に世界で初めて発見し、Nature誌に発表されております。
- 大阪府吹田市で行われた、1996年から2007年までの11年間、2,500名の疫学研究で、LOX-index値が高い人は、低い人に比べて、**脳梗塞発症リスクが3倍、心筋梗塞発症リスクが2倍**であることがわかり、2010年に医学界では権威のあるClinical Chemistry 誌に発表されております。

たった1万円強で、血液検査だけで簡単に検査できる手軽さがポイントです

- LOX-index検査は、血液検査のみの簡単な検査で、時間はかかりません。
- 価格は1万2千円と、健康に気を遣っている方なら、すぐに意思決定できるレベルです。
- 4~6万円程度かかり、時間もかかる、脳ドックと比べてもかなり手軽に受診可能です。
- 全国約250か所の医療機関で受診できます

企業・健保の採用も増えてきております(今年度16の企業・健保)

- 1 生活習慣改善契機になる⇒これまでなかなか生活習慣を変えられなかった方も変わります
- 2 貴重な労働人材の維持⇒突然倒れられ業務が滞る前に、リスクを把握し対処できます
- 3 健康経営のPR/CSR⇒”健康経営”に先進的に取り組む企業・健保として対外発信できます
- 4 将来的な医療費削減⇒放置していれば必要になる医療費を予防することで削減できます

受診者の方には、検査結果の詳しい解説と、結果に応じた生活習慣改善指導をまとめた詳細な報告書をお渡ししております。

検査結果報告書例：

★ 氏名 demo demo 様 ★ 受診日 2012/9/20

★ カルテID 11227 ★ 性別 男性 ★ 年齢 63

総合評価グラフ

脳梗塞・心筋梗塞発症リスクは **中高** です。

1800
1500
1200
900
600
300
0

0.0 2.0 4.0 6.0 8.0 10.0

LAB (mg cs/L)

■ 高リスク
■ 中高リスク
■ 中リスク
■ 低リスク

★ 今回の結果
☆ 前回の結果
★ 前々回の結果

※ リスク評価検査の検査結果であり、医学的な診断結果ではありません。

総合評価コメント

リスクの高い状態です。高血圧、高血糖、肥満、喫煙などの動脈硬化リスクを持っている人は人間ドックや検診などで医師に相談してください。sLOX-1は炎症の上昇することが知られているため、生活習慣病や慢性疾患などによる炎症の可能性も否定できません。sLOX-1が高い状態でLABが高くなると更にリスクが高まるため、LABを上昇させないようにすることが重要です。

LAB上昇の原因である活性酸素の発生を抑えるには、食生活の改善が第一ですが、コエンザイムQ10やアスタキサンチン、ビタミンEなどの抗酸化サプリメントの摂取が効果的だと言われています。また、喫煙、過度の飲酒、睡眠不足、精神的ストレスなど活性酸素の発生原因となる生活習慣の改善が重要です。

個別時系列データ

sLOX-1

900
800
700
600
500
400
300
200
100
0

2010/5/14 2011/5/14 2012/5/14

評価 中 中 低

参考基準値 144ng/L以下

LAB

14.0
12.0
10.0
8.0
6.0
4.0
2.0
0.0

2010/5/14 2011/5/14 2012/5/14

評価 高 中 中

参考基準値 7.9mg cs/L以下

LOX-index

12000
10000
8000
6000
4000
2000
0

2010/5/14 2011/5/14 2012/5/14

評価 高 中 中

参考基準値 7460以下

解説

LOX-1 (Lectin-like oxidized LDL receptor-1) は、血管壁に存在する異物を認識する部分で血液中から取り除く働きをしており、血管に障害が起こるとLOX-1産生が促進されます。LOX-1は、血管壁から切り離され血液中に浮遊するものをsLOX-1 (soluble LOX-1) と言います。sLOX-1は、血管炎症と指標として利用されます。

今回の検査結果は、血中のsLOX-1が低い状態が理想的と考えられます。先に述べた通り、LOX-1は血中から異物を取り除く働きをしているため、異物が少ない状態と考えられます。また、血管炎症も少なく、動脈硬化が進行しにくい状態が保たれていると考えられます。

しかし、安心は禁物です。加齢に伴い、血中の異物は増え、動脈硬化が進行しやすい状態になります。今まで以上に健康を意図する事が重要です。

解説

LAB (LOX-1 ligand containing ApoB) は、LOX-1と結合する「LDLコレステロール (以下LDL-C)」の総称であり、一般的には「酸化LDL」を指します。「酸化LDL」は、LDL-Cの一部が活性酸素などにより酸化された状態のもので、サビ付いているということです。「リンゴの切り口が茶色く変色する」、「揚げ油が黒く変色する」などと同じ事です。LDL-Cは、コレステロールを体の細胞まで運ぶ役割を担っていますが、サビ付いたLDL-Cは動脈硬化を引き起こす原因となります。これが、LDLが「悪玉」と呼ばれる本当の理由です。

今回の検査結果では、動脈硬化の原因であるLABが非常に高い値を示しております。一度、動脈硬化に関する精密検査を受診されることをお勧め致します。その結果も含め、適切な生活習慣の改善が必要です。

解説

「LOX-index」は、脳梗塞・心筋梗塞発症リスクを評価する最新の指標です。日本国内で行われた約2,300名を約10年追跡研究した結果より、2010年に加わった新たな知見が加わった。その結果は、sLOX-1 (可溶性LOX-1: 血中に放出されたLOX-1) とLAB (LOX-1 ligand containing ApoB) から得られる解算値が、今後10年以内に脳梗塞・心筋梗塞発症率に大きく関与する事がわかりました。脳梗塞発症率で約3倍、心筋梗塞発症率で約2倍となり、これら2つの疾患のリスク評価検査としては、第一の検査です。

今回の検査結果では、リスク評価値が中程度と考えられます。しかし、今後の加齢などのリスク要素を考えると高リスク群に移行する可能性がかなり高いと考えられるため、生活習慣の改善などでsLOX-1とLAB下げる必要があります。

発症リスクのレベルを分かりやすいグラフで記載

検査結果に対する総合評価と改善の方向性を提案

過去の検査結果も踏まえた詳細な解説付き

医師のコメント：

- 癌は発見が遅れて余命3ヶ月でも、3ヶ月間は本人も家族も死に向かって準備ができる。しかし、脳梗塞・心筋梗塞は突然発症し、そのままの準備もできないまま、命を落とすこともあるので、だからこそ、リスクを把握し、予防することに意義がある。
- メタボと言われても、もはや何も感じない人が多いが、LOX-indexを受診し、「脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクが高い」と言われると、危険な病を初めて自分事と認識し、生活習慣を改善し始める人が多い。

NKメディコ株式会社のご紹介

〈社 名〉	NKメディコ株式会社
〈代 表 者〉	富永 朋 (とみなが とも)
〈設 立〉	2010年7月9日
〈資 本 金〉	1億円
〈株 主 構 成〉	ノーリツ銅機株式会社100%
〈事業内容〉	・予防医療事業 ・最先端医療の技術開発事業
〈所 在 地〉	【本社】 〒105-0012 東京都港区芝大門2丁目5-5 住友芝大門ビル11階 TEL : 03-5776-1105 FAX : 03-5776-1106 【東京研究所】 〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-3-4 レインボースクエアビル4階 402号 TEL・FAX : 03-5364-9437 登録番号: 杉保生登第7号 【大阪事業所】 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島5-9-1 新大阪花村ビル5階 株式会社ドクターネット内 TEL : 06-4862-5018 FAX : 06-4862-5019
〈U R L〉	http://www.nk-m.co.jp

(アクセス)



都営大江戸線・都営浅草線 大門駅 A3 出口より徒歩 2分
J R 浜松町駅 金杉橋口より徒歩 4分
都営三田線 芝公園駅 A3 出口より徒歩 6分

Google Mapはこちら

(連絡先)

【電 話】 03-5776-1105
【F A X】 03-5776-1106
【E-mail】 info@nk-m.co.jp